

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	:	酢酸エチレングリコールモノエチルエーテル
SDS コード	:	J1-01
供給者の会社名称	:	
林純薬工業株式会社		
住所	:	大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号
電話番号	:	06-6910-7305
E-mail	:	shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp
URL	:	https://direct.hpc-j.co.jp/
緊急連絡電話番号	:	06-6910-7305
推奨用途	:	試験研究用
使用上の制限	:	人体又は動物用の医薬品、食品、家庭用品、化粧品等には使用しない事

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高圧ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分 3	
	可燃性固体	区分に該当しない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	区分に該当しない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過氧化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	鈍性化爆発物	分類できない	
	健康有害性	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
		急性毒性 (経皮)	区分に該当しない
		急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
急性毒性 (吸入: 蒸気)		区分 4	
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)		分類できない	
皮膚腐食性/刺激性		区分に該当しない	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		区分 2B	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		分類できない	
生殖細胞変異原性		分類できない	
発がん性		分類できない	
生殖毒性		区分 1B	

	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (血液系)
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (麻酔作用)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 1 (血液系, 精巣)
	誤えん有害性	分類できない
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分 3
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示
(GHS JP)



GHS02



GHS07



GHS08

- 注意喚起語 (GHS JP) : 危険
- 危険有害性 (GHS JP) :
- 引火性液体及び蒸気 (H226)
 - 眼刺激 (H320)
 - 吸入すると有害 (H332)
 - 眠気又はめまいのおそれ (H336)
 - 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (H360)
 - 臓器の障害 (血液系) (H370)
 - 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (血液系、精巣) (H372)
 - 水生生物に有害 (H402)

注意書き (GHS JP)

- 安全対策 :
- 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
 - 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
 - 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざげること。禁煙。(P210)
 - 容器を接地しアースをとること。(P240)
 - 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。(P241)
 - 火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
 - 静電気放電に対する措置を講ずること。(P243)
 - 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)
 - 取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)
 - この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
 - 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271)
 - 環境への放出を避けること。(P273)
 - 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)

応急措置

- :
- 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。(P303+P361+P353)
 - 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
 - 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
 - ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。(P308+P311)
 - 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)
 - 眼の刺激が続く場合: 医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)
 - 火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)

保管

- :
- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)
 - 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)
 - 施錠して保管すること。(P405)

廃棄

- :
- 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質
別名 : 酢酸 2-エトキシエチル、エチレングリコールモノエチルエーテルアセテート

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
酢酸エチレングリコールモノエチルエーテル	≥98.0%	C6H12O3	(2)-740	既存化学物質	111-15-9

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。
上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て重量%となります。

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に診断/手当てを受けること。

皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
多量の水と石鹸で優しく洗うこと。
直ちに医師に診断/手当てを受けること。

眼に入った場合 : 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用してい
て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないこと。
口をすすぐこと。
直ちに医師に診断/手当てを受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 水噴霧、泡消火剤、乾燥粉末消火剤、二酸化炭素、砂

使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。

火災危険性 : 極めて引火性の高い液体及び蒸気。

爆発の危険 : 屋内、屋外又は下水溝で蒸気爆発の危険がある。
加熱により、容器が爆発するおそれがある。

火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。

消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に
消火する。
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。
消火後も大量の水を用いて容器を冷却する。

消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置 : 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な
保護具を着用し、風下で作業行わない。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 : 漏出は、吸収剤を使用してできるだけ素早く回収する。
できるだけ液体漏出物は密閉容器に回収する。
回収跡は多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。
漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。

- 安全取扱注意事項 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗いうがいをする事。
作業所の十分な換気を確保する。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
防爆型装置を使用する。

- 接触回避 : 長時間または反復の暴露を避ける。

保管

- 安全な保管条件 : 施錠して保管すること。
直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。
- 安全な容器包装材料 : 遮光した気密容器。
- 技術的対策 : 適用法令を遵守する。
- 保管温度 : 冷暗所保管

8. ばく露防止及び保護措置

成分名	管理濃度(厚生労働省)	許容濃度(産衛学会)	
		基準値	許容濃度 上限
酢酸エチレングリコールモノエチルエーテル	5 ppm	27 mg/m ³ 5 ppm	-

- 設備対策 : 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

- 皮膚及び身体の保護具 : 不浸透性前掛け、不浸透性作業衣、不浸透性長靴
- 眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
- 手の保護具 : 不浸透性保護手袋
- 呼吸用保護具 : 有機ガス用防毒マスク

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体
- 外観 : 液体
- 色 : 無色透明
- 臭い : わずかな芳香臭
- pH : データなし
- 融点 : -62 ° C
- 凝固点 : データなし
- 沸点 : 156 ° C
- 引火点 : 51 ° C (セタ密閉式)

自然発火点	: 379 ° C
分解温度	: データなし
可燃性	: データなし
蒸気圧	: 0.16 kPa (20°C)
相対密度	: データなし
密度	: 0.97 g/cm ³ (20°C)
相対ガス密度	: 4.7 (空気=1)
溶解度	: エタノールに可溶。ジエチルエーテルに可溶。 水: 22.9 % (22°C)
n-オクタノール/水分配係数(Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: 1.7 - 14 vol % (空气中)
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の取扱い条件では安定である。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤、強塩基、強酸、硝酸塩と反応する。
避けるべき条件	: 日光、熱、火花、裸火、静電気等の発火源。強酸化剤、強塩基、強酸、硝酸塩との接触。
混触危険物質	: 強酸化剤、強塩基、強酸、硝酸塩
危険有害な分解生成物	: データなし

11. 有害性情報

酢酸エチレングリコールモノエチルエーテル	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、2,700 mg/kg、2,900 mg/kg (環境省リスク評価第 11 巻 (2013))、3,900±100 mg/kg (雄)、2,900±100 mg/kg (雌) (DFGOT vol. 6 (1994)、PATTY (6th, 2012))、5,100 mg/kg (EHC 115 (1990)、PATTY (6th, 2012))、2,900-7,500 mg/kg (NITE 初期リスク評価書 (2008)、ECETOC TR95 (2005)) の 6 件の報告がある。ガイダンスの改訂により、最も多くのデータが該当する区分外 (国連分類基準の区分 5) とした。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LD50 値として、10,227 mg/kg (環境省リスク評価第 11 巻 (2013))、10,300 mg/kg (ACGIH (7th, 2001)、PATTY (6th, 2012))、10,333 mg/kg (EHC 115 (1990))、10,500 mg/kg (DFGOT vol. 6 (1994)、PATTY (6th, 2012))、10,300-10,500 mg/kg (ECETOC TR95 (2005)、NITE 初期リスク評価書 (2008)) との報告に基づき、区分外とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットの LC50 値 (2 時間) として、>1,500 ppm (4 時間換算値:> 1,061 ppm) (環境省リスク評価第 11 巻 (2013))、ラットの LC50 値 (8 時間) として、2,239 ppm (4 時間換算値: 3,166 ppm) (環境省リスク評価第 11 巻 (2013))、1,499-2,239 ppm (4 時間換算値: 2,119-3,166 ppm) との報告に基づき、区分 4 とした。なお、LC50 値が飽和蒸気圧濃度 (3,079 ppm) の 90%より低いため、ミストを含まないものとして ppm を単位とする基準値を適用した。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	ウサギを用いたドレイズ試験において、本物質の 24 時間適用によりわずかな刺激性がみられたとの報告がある (ECETOC TR95 (2005)、NITE 初期リスク評価書 (2008))。また、皮膚一次刺激性試験 (EEC 試験法) において 4 時間の閉塞適用により刺激性はみられなかったとの報告や (ECETOC TR95 (2005)、NITE 初期リスク評価書 (2008))、軽度の刺激性を示したとの報告が複数ある (NITE 初期リスク評価書 (2008)、PATTY (6th, 2012))。以上より、区分外 (国連分類基準の区分 3) とした。
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	ウサギ 4 匹を用いた 1 次刺激性試験 (OECD TG 405、GLP) において、試験物質原液 0.1 mL の適用により、スコア 2 の角膜混濁が 1 匹、スコア 1 又は 2 の結膜発赤が 4 匹、スコア 1 又は 2 の結膜浮腫が 3 匹に認められたが、いずれも適用後 7 日目にはほ

酢酸エチレングリコールモノエチルエーテル	
	ぼ消失し、最大平均スコア MMAS (AOI に相当) は 15.0 であったとの報告 (ECETOC TR 48 (1988)) から、区分 2B とした。なお、他にウサギを用いた皮膚刺激性試験は複数報告があり、刺激性なしや軽度の刺激性の結果が報告されている (NITE 初期リスク評価書 (2008)、ECETOC TR95 (2005)、PATTY (6th, 2012))。
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。なお、モルモットを用いた Magnusson-Kligman 試験において、本物質 10% の感作誘発に対し感作性はみられなかったとの報告がある (ECETOC TR95 (2005)) が、試験条件等について詳細不明であるため分類に用いるには不十分なデータと判断した。情報の追加に伴い区分を変更した。
生殖細胞変異原性	ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivo では、マウス骨髄細胞の小核試験で陰性 (NITE 初期リスク評価書 (2008)、環境省リスク評価第 11 巻 (2013)) である。In vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験でいずれも陰性、陽性の結果が得られている (NITE 初期リスク評価書 (2008)、環境省リスク評価第 11 巻 (2013)、NTP DB (Access on July 2014))。
発がん性	データ不足のため分類できない。
生殖毒性	ラットを用いた吸入経路での催奇形性試験において母動物毒性がみられない用量 (2,140 mg/m ³) において内臓奇形 (心臓奇形)、骨格奇形がみられている (ECETOC TR95 (2005)、DFGOT vol. 6 (1994))。また、ウサギを用いた吸入経路での催奇形性試験において母動物毒性がみられる用量 (550 mg/m ³) において外表、骨格、内臓奇形の増加、総吸収胚増加がみられている (ECETOC TR95 (2005)、DFGOT vol. 11 (1998))。そのほか、ラットを用いた経皮経路での催奇形性試験において母動物毒性 (体重減少) がみられる極めて高用量 (5,923 mg/kg bw/day) において胎児体重減少、生存出生児数/腹の減少、出世前死亡率増加、内臓奇形 (心臓奇形)、骨格奇形がみられている (ECETOC TR95 (2005)、DFGOT vol. 11 (1998))。以上のように、吸入経路のラットを用いた催奇形性試験において、母動物毒性がみられない用量で内臓奇形、骨格奇形がみられたとの報告がある。したがって、区分 1B とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ラットに本物質 2,000 ppm を 4 時間吸入ばく露した結果、血尿がみられた (NITE 初期リスク評価書 (2008))。ラットの 2,900 mg/kg の経口投与で、血尿、血液で拡張した腎臓の肥大 (PATTY (6th, 2012)) が報告されている。また、胃腸管の刺激、軽度の肝臓傷害の報告がある (PATTY (6th, 2012))。その他、吸入ばく露で、眩暈、嗜眠、頭痛、意識喪失、経口摂取では、これらの症状に加え、嘔吐 (環境省リスク評価第 11 巻 (2013)) の記載がある。また、対象は不記載であるが、本物質は血液に影響を与え、血球障害、貧血、高濃度の場合は腎臓障害、また、中枢神経系に影響を与え、高濃度では意識喪失 (環境省リスク評価第 11 巻 (2013))、中枢神経系、血液系、肺、腎臓への傷害性を有する (HSDB (Access on June 2014)) との記載がある。以上の情報のすべてにおいて明確な区分を付け得る情報があるわけではないが、吸入ばく露の血尿のデータが区分 1、経口投与のデータが区分 2 に相当するガイダンス値の範囲でみられた。ラットの経口投与の肝臓、腎臓の知見はガイダンス値を超えており、肺の知見は区分が不明であった。また、吸入ばく露での眩暈等の症状は区分が不明であり、症状の種類から麻酔作用が妥当と判断した。以上より、区分 1 (血液系)、区分 3 (麻酔作用) とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	本物質は体内の様々な組織において、エステラーゼを介して迅速に加水分解され、エチレングリコールモノエチルエーテル (EGEE; CAS No.: 110-80-5) を生成する (CICAD 67 (2010)、NITE 初期リスク評価 (2008))。EGEE はアルコール脱水素酵素により、エトキシアセトアルデヒドを経て、エトキシ酢酸 (EAA) へと酸化され、EAA 又はそのグリシン抱合体として尿中へ排泄される (CICAD 67 (2010)、NITE 初期リスク評価書 (2008))。この EAA が EGEE 及び EGEE の酢酸エステルである本物質に共通した活性代謝物であり、本物質も吸収後は加水分解され活性代謝物の EAA に代謝されることから、EGEE と同様の毒性を発現すると考えられており、CICAD 67 (2010) では両物質は同列に扱われ、一括して評価されている。事実、本物質、EGEE とともにヒト及び実験動物において、血液系、生殖器への影響がみられたとの知見があり (NITE 初期リスク評価書 (2008)、CICAD 67 (2010))、ヒトでは EAA への代謝生成能がラットより高く、クリアランスもラットより遅延する傾向があることから、ヒトでは EAA の生体内滞留時間が実験動物より長く、したがって、より低用量から毒性影響が発現する可能性が指摘されている (NITE 初期リスク評価書 (2008)、CICAD 67 (2010))。以上、本物質の分類は EGEE と同一とし、区分 1 (血液系、精巣) とした。なお、旧分類では利用されなかった情報源を用いたため、分類結果が異なった。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

酢酸エチレングリコールモノエチルエーテル	
水生環境有害性 短期(急性)	魚類(ブルーギル)の96時間LC50 = 41 mg/L(環境省リスク評価第6巻, 2007)であることから、区分3とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(良分解性(2週間でのBODによる分解度:86.9%)(既存点検, 1976))、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC = 44 mg/L(環境省生態影響試験, 2002)であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、魚類(ブルーギル)の96時間LC50 = 41 mg/L(環境省リスク評価第6巻, 2007)であるものの、急速分解性があり(良分解性(2週間でのBODによる分解度:86.9%)(既存点検, 1976))、生物蓄積性が低いと推定される(log Kow= 0.59(PHYSPROP Database, 2009))ことから、区分外となる。以上の結果より、区分外とした。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送(IMDG)

- 国連番号(IMDG) : 1172
- 正式品名(IMDG) : ETHYLENE GLYCOL MONOETHYL ETHER ACETATE
- 容器等級(IMDG) : III
- 輸送危険物分類(IMDG) : 3
- 危険物ラベル(IMDG) : 3
- クラス(IMDG) : 3
- 少量危険物(IMDG) : 5 L
- 微量危険物(IMDG) : E1
- 包装要件(IMDG) : P001、LP01
- IBC包装要件(IMDG) : IBC03
- ポータブルタンク包装規定(IMDG) : T2
- 輸送特別規定-タンク(IMDG) : TP1
- 積載区分(IMDG) : A
- 引火点(IMDG) : 51° C c.c.
- 特性および観察結果(IMDG) : Colourless liquid. Flashpoint: 51° C c.c. Explosive limits: 1.7% to 10.1%. Partially miscible with water.
- 緊急時応急措置指針番号 : 129

航空輸送(IATA)

- 国連番号(IATA) : 1172
- 正式品名(IATA) : Ethylene glycol monoethyl ether acetate
- 容器等級(IATA) : III
- 輸送危険物分類(IATA) : 3
- 危険物ラベル(IATA) : 3
- クラス(IATA) : 3
- PCA 微量危険物(IATA) : E1
- 特別管制区(PCA)少量危険物(IATA) : Y344

特別管制区(PCA)数量限定物の最大積載量(IATA)	: 10L
PCA 包装要件(IATA)	: 355
特別管制区(PCA)最大積載量(IATA)	: 60L
CAO 包装要件(IATA)	: 366
貨物機専用(CAO)最大積載量 (IATA)	: 220L
ERGコード (IATA)	: 3L
海洋汚染物質	: 非該当
国内規制	
海上規制情報	: 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	: 航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号	: 129
特別な輸送上の注意	: 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法	: 第2種有機溶剤等(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号) 作業環境評価基準(法第65条の2第1項) 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2) エチレングリコールモノエチルエーテルアセテート(別名セロソルブアセテート) 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号) 特殊健康診断対象物質・現行取扱労働者(法第66条第2項、施行令第22条第1項) 皮膚等障害化学物質等・皮膚吸収性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧)
毒物及び劇物取締法	: 非該当
消防法	: 第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中央環境審議会第9次答申) 揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達)
海洋汚染防止法	: 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)
外国為替及び外国貿易法	: 輸出貿易管理令別表第1の16の項
船舶安全法	: 引火性液体類(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	: 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法	: その他の危険物・引火性液体類(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)
道路法	: 車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	: 特別管理産業廃棄物(法第2条第5項、施行令第2条の4)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	: 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) 酢酸2-エトキシエチル(別名エチレングリコールモノエチルエーテルアセテート)(管理番号: 133)(100%)

16. その他の情報

参考文献	: 17524の化学商品(化学工業日報社) 国際化学物質安全性カード(ICSC) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) ERG2020版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)
------	--

その他の情報

- : この SDS は林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。